

議会

なかたね

だより

173号

令和6年11月8日発行

令和6年第3回定例会



親子でつなぐ
一輪車リレー！

種子島Fの会 馬場 愛さん撮影

令和6年度補正予算	②～③
一般質問(5人)	④～⑨
条例・契約・その他	⑩
決算特別委員会・その他	⑪
議員大会	⑫
委員会レポート	⑬
移住者インタビュー・編集後記	⑭

令和6年 第3回定例会 9月11日～19日

9月定例会のあらまし

9月定例会は、9月11日招集され、19日までの9日間の会期で開かれました。

初日は、5人の議員が一般質問を行いました。

総務文教常任委員長の所管事務調査報告、補正予算5件、条例改正2件・契約2件等を原案どおり可決し、令和5年度中種子町一般会計歳入歳出決算認定等5件が上程され、決算特別委員会に付託されました。

最終日は、条例改正1件、補正予算1件及び同意案件1件を可決、同意しました。

令和6年度補正予算

一般会計補正予算 (第2号)

※第1回臨時会（8月9日）

6月17日から18日にかけて発生した梅雨前線の影響で、町道及び河川、農業施設等の災害が発生したため、復旧にかかる経費を計上するものです。

一般会計補正予算 (第3号・第4号)

地方交付税の交付決定と梅雨前線豪雨及び台風10号（8月27日から28日）による災害復旧経費の追加が主なものです。

歳入

地方交付税は、交付決定による調整。
国県支出金は、地方創生臨時交付金及び災害復旧事業に係る負担金等の追加。
繰入金は、財源調整

のため財政調整基金及び減債基金を減額。

歳出

「総務費」中央運動公園深井戸ポンプ取替修繕に要する経費を追加。
「民生費」定額減税にかかる調整給付金及び国保特別会計繰出金を増額。

「衛生費」コロナワクチン接種に係る経費を増額及び前年度国県支出金等精算金を追加。
「農林水産業費」輸送コスト支援に要する経費を増額及び地籍調査測量委託に係る経費を減額。

「土木費」県単道路事業に要する経費を増額。
「教育費」郷土誌編纂に要する経費の追加。
「災害復旧費」6月豪雨及び台風10号に係る災害復旧経費を計上しています。

[別表]

令和6年度 会計別予算額

会 計 名	(補正号数)	補 正 額	補正後の予算額
一 般 会 計	(第2号)	1,562万円	82億287万円
	(第3号)	2億3,258万円	
	(第4号)	2,968万円	
特別会計	国民健康保険事業	(第2号) 8万円	14億3,023万円
	介護保険事業	(第2号) 5,630万円	12億9,824万円
	後期高齢者医療	(第1号) 975万円	1億6,755万円
水道事業会計(収益的支出)		(第2号) 690万円	3億4,525万円

町民の暮らしと災害

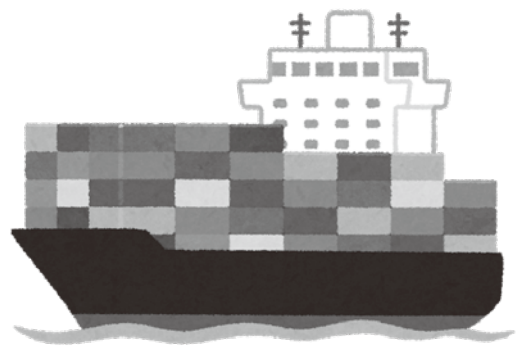
補正予算の主なもの

定額減税調整給付金



1,500万円

輸送コスト支援事業



189万円

戦略産品輸送費支援事業



496万円

災害復旧費



1億9,600万円

6月豪雨災害及び台風10号の復旧費として、道路橋梁等4件、河川等1件、農業用施設等36件の工事費を計上。

町政を問う!!



秋田 澄徳 議員

- ・ハーベスタ中出し作業の無償化を
- ・家畜損耗防止対策事業の農家負担軽減を
- ・死亡家畜の処理経費、負担軽減策を熊毛全体で



QRコード



浦邊 和昭 議員

- ・不祥事に関する対応について
- ・かんしょ作の現況について
- ・小学校体制について



QRコード



大町田 勇希 議員

- ・災害時における避難所運営は
- ・学校給食を提供できない児童への支援は
- ・中種子町での教育ビジョンは



QRコード



池山 朝生 議員

- ・年間通じた労働力の確保を
- ・移住・定住のきっかけ/人口減少対策
- ・「災害対策に正解なし」早急に対応すべき



QRコード



戸田 和代 議員

- ・子宮頸がん予防は、学校現場では



QRコード

※QRコード・・・インターネットにより録画を見ることが出来ます。

一般質問とは

一般質問とは、議員が町政全般にわたり、執行機関に対して事務の執行状況及び将来に対する方針等について所信をただし、あるいは報告、説明を求め、又は疑問をただすことです。

なお、議員一人につき60分の時間制限を設けています。



秋田 澄徳 議員

ハーベスタ中出し作業の無償化を

1、2年しっかり検討してから



田淵川 寿広 町長

町長 ホイルローダは今週か来週に納品となります。これは公社が管理し、各生産組合にも貸し出すシステムを検討しています。作業料金の無償化については、それぞれの組合の考え方もあります。今、中出し作業料金に関しての検討までは至っておりません。ホイルローダ導入で作業能力は上がると思いますが、そのオペレーターの問題等様々な課題も出てきているところで、今、そこを検討しておりますので、1年、2年、しっかり検討した中で考えていく必要性はあるのではないかと考えております。

秋田 昨年6月定例会で、ハーベスタ中出し作業は、再編交付金を活用した農業公社のホイルローダ導入で調整し、中出し作業料金の無償化も含めて検討して行かなければならないと答弁されている。質問の目的には農家負担の軽減、生産者の耕作意欲減退と耕作放棄地の防止があります。これまでの検討結果について伺う。

町長 家畜損耗防止対策に置かれていて、畜産業を下支えするため、町ができる事業の創設・既成事業の見直しなど、町の気持ちと予算化することが求められているが、本町の家畜損耗防止対策の現状について伺う。

家畜損耗防止対策事業の農家負担軽減を

秋田 1、2年かかるの答弁だが、昨年6月にはホイルローダ導入が決まっていた。既に1年以上経過し、キビの収穫は3ヶ月後には始まる。その中身は検討してこなかったのか。

町長 全く検討していないと言う訳ではございません。各生産組合との協議であったり、公社の理事会の中、ただ、議題に挙げる段階ではなかったもので記録は残ってございせんが、全く検討していない訳ではございせんのでご理解を頂きたいと思っております。

秋田 この5年間の数値で、本町では、子牛が年平均200頭死亡している、損失は約1億7000万円、約12億円の損失。西之表市の対策は、再編交付金で、子牛損耗防止対策事業は補助率80%、牛ボツリヌス菌・乳用牛炭疽菌対策は100%。今、体力を消耗している畜産農家を、再編交付金事業で支援する気概はないか。

策については、23年度から町単独事業として開始し、当時は子牛の死亡が大変多く、呼吸器系・消化器系の病気で8割というようなことで、子牛の損耗防止、発育促進を図るため、町家畜自衛防疫対策協議会で実施し、事業経費の3分の1以内（33%以内）を支援しているところ、今の競り価格の状況も続くような気がします。しばらくはこの事業を展開して参りたいと考えているところ、ございませう。

秋田 死亡家畜処理にかかる生産者負担が大きいことから、島内運搬・島外移出処理経費の軽減、島外移出の海上輸送部分は、地域社会維持推進交付金の制度拡充について、国県へ強く要請を。また、熊毛畜産の振興を図る観点から、1市3町で

死亡家畜の処理経費、負担軽減策を熊毛全体で

なサポートをさせていただいております。これだけ気概でやりなさいと言われて、はい、分かりましたという訳にはいきません。やはり和牛振興会とも話をしている中で、丁寧な飼養管理が死亡牛の低減に結びつくんだという意識を持ってもらえる方も結構多いようです。我々も、一競り分の牛が亡くなっているというのとは前々から感じていたところで、そこに対する対策は、畜産農家の皆さんには頑張っていたいただきたいと、お願いもしているところ、ございませう。



町長 種子島家畜衛生処理組合で冷凍施設を設置して、適正な処理を推進して、組合運営に努めているところ、ございませう。処理料金につきましては、議員の説明のとおり、農家負担があるところで、一部については、負担金を財源に助成金を交付し、また、家畜衛生処理組合の運営経費もそれぞれ構成員で負担しているところでございませう。海上運賃を含めた、様々な要請活動においても、農政関係に関する問題でございませうので、強く訴えていきたいと思っております。

して頂きたい。

不祥事に関する対応について



浦邊 和昭 議員

町長 依頼退職は個の問題

浦邊 第2回定例議会で議案第34号として可決された懲罰処分期間が、7月1日から9月30日までとなっていたにもかかわらず、退任、退職されたが町長はどう受け止めているか。

町長 職員の不祥事が発生し、当該職員に処分を行ったことは、町民の皆さまの行政に対する信頼を失墜させることになりお詫び申し上げます。厳正なる処分の必要性があったということであり、お互い処分を受けて信頼回復のため心機一転頑張ろうと思っていたので、非常に残念な思いです。責任を痛感していることであらうと思います。

浦邊 退職は信頼回復に繋がるのか。

町長 人材不足の中で、依頼退職は食い止めた思いは強く、残念です。後は人員の補充で対応していかなければと思います。自分を戒

めながら各課長等により一層の理解、協力を望みます。

浦邊 不祥事再発防止策は、各協議会会計事務等が職員の負担増とならないか。

町長 各課において、公共の利益を促進するため協議会を所管しています。業務を行う上でまた、行政サービスの面からも職員が事務を負担するものでその役割を担っている。過度に負担がかかるようであれば改善し対応を図っていききたい。

かんしよ作の現況について
町長 大変厳しい状況に來ている

浦邊 中種子の農業は、さとうきび、畜産、各園芸作物等と共に歩んできたかんしよであるが、澱粉原料用、青果用、焼酎用それぞれの産業を維持できる安定量は図られているのか。

町長 これまで本町では、基幹作物として、さとうきびと澱粉原料用かんしよを中心に農業振興を図ってきたところですが、令和2年基腐れ病が発生して以来、国、県、町単独の各事業を実施している中で、かんしよ全般の作付面積、生産量が大幅に落ち込んでいる状況です。青果用に関しては、需要は多いが供給不足ということです。また、焼酎用においては安定しているようです。しかし、全体的に面積の減少を止めることができなかつたというのが現状で、各農家、澱粉工場の経営には痛手となっていますと認識していますし、国からの支援を要請しながら作付し易い環境づくりをしていかなければと思います。

小学校体制について
教育長 統廃合は考えていない

浦邊 町内7小学校の内、6小学校が小規模校であるがこのままの

体制を保つのか。

教育長 町内各小学校では、小規模校のメリット、各地域の特色を生かして学校と地域が連携し、魅力ある学校づくりに熱心に取り組んでいます。町民に地域生活の不安を感じさせることに繋がることを考慮して、小規模校の統廃合に関する再編については、現在のところ考えておりません。

浦邊 例えば、ある学年の児童が1人でその両隣が2、3人の場合、6年間児童は頑張っているのかなと思います。そんな中での小規模校のメリットは。

教育長 教職員の目が届きやすく、人数が少ない自分から積極的に取り組まなければなら



鮫島 孝則 教育長

らないリーダー性も育ってきます。また、交流学习や集団宿泊学習、修学旅行を設け健全育成に努めています。

浦邊 何名以下になったら、次の段階を検討するという線を考えるべきでは。

教育長 6小学校は国が定める基準を下回っているが、行政が一方的に進めるのではなく、地域住民の理解と協力を得られるときに、総合的に判断することが求められています。現段階では、もうその最低のラインに來ています。

浦邊 各々の声を聞く機会を。

教育長 現在、学校規模適正化について、まだ議論は始まっていません。しかし、校区からの要望があれば、御意見を聞かせていただきながらよりよい方向を探っていきたいと考えます。



大町田 勇希 議員

災害時における避難所運営は

町長 要望により対応していく

大町田 台風10号により避難された町民の数は。

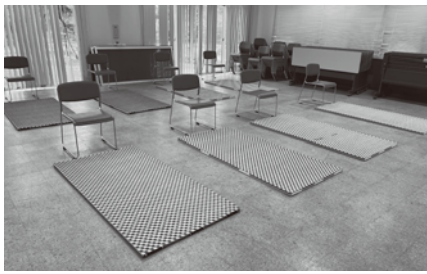
町長 町としては、8月27日午後5時に自主避難所として中央公民館を開設し、翌28日午前9時に町内9か所の避難所を開設したところです。

避難者につきましては、27日の自主避難が5名、28日は85名の方が避難されております。

全体では90人の方が避難しております。

29日は強風域にあったものの、風雨も大分収まっていたこともあり、午前9時までには全ての避難者が帰宅され、特別警報も解除されたことから、午前10時30分に避難所を閉鎖したところです。

大町田 各避難所の停電はなかったのか。



▲避難所での状況（増田）

町長 中央公民館で瞬間というのがございましたが、長期にわたった停電というのはありませんでした。ただ、油久の体育館、そこについては停電が続いたと聞いています。

大町田 停電した箇所に避難した町民がいたのか、また、いたのであれば、健康状態等に大きな影響はなかったのか。

町長 油久につきましては、避難者数がー世帯、ー人の避難の方で

ございました。健康状態に問題はなかったと聞いております。

学校給食を提供できない児童への支援は町長／保護者の要望により今後検討する

大町田 給食での食品アレルギーに該当する児童数は。

町長 アレルギー対応を行っている児童生徒は、総数で19名となっております。

学校給食における食物アレルギー対応につきましては、文部科学省による指針やガイドライン、種子島地区学校栄養士協議会によるマニュアルなどを参考に行っております。

なお、原因食物として複数の主要食物を有している児童の場合、安全性を最優先とすることから、給食停止とし、お弁当持参による対応とさせていただきます。

しているところです。

大町田 弁当で対応している児童数は。

町長 保護者からの申出により、弁当をー人、町内で今対応している現状です。

大町田 現在給食費が無償化されているが、こういった児童に対して何かしら支援を考えてみては。

町長 そういった意味ではー人の子どもということでしっかり対応するべき問題であると感じており、これに関しては我々も真摯に受け止め、考えていく必要性はあると思います。

中種子町での教育ビジョンは
教育長「キャリア教育・ICT教育を推進していく」

大町田 教育長が考える、これからの中種子

町での教育ビジョンについて行政として何を推し進めていくのか。

教育長 これまでの中種子町教育振興基本計画を踏まえ、県教育委員会と連携しながら、風に向かって立つ中種子の人づくりを基本目標として、郷土の教育的な伝統や風土を生かし、全人教育、生涯教育の推進に努めています。

大町田 中種子町として他の自治体に負けない、違いを具体的に問う。

教育長 中種子町では特に取り組んでいるのがキャリア教育、ICT教育を本町がー番推進している教育活動です。

年間通じた労働力の確保を



池山 朝生 議員

町長 協働組合の設立をまさに検討

池山 「特定地域づくり事業」この制度を種子町も取り組むべきでは。

町長 地域人口の急減に直面している地域において、農林水産業、商工業などの地域産業の担い手を確保するために、※マルチワーカーと呼ばれる季節ごとの労働需要に応じて、複数の事業者に従事する労働者を派遣する事業を行う協働組合に対して、財政支援を行う事業と認識している。

池山 この制度は、年間を通じた仕事をつくり安心して地方で暮らし続けられる仕事の創出である。また、一つの仕事にこだわることなく複数の仕事を自分の時間で選ぶことができる仕組み。安定給与・社会保険・財政支援あ

り。地域産業は、繁忙期の労働力確保がいちばんの課題である。制度の周知をしっかりとお願いしたい。

町長 事業者のみならずへの説明会を行います。

年間を通じての雇用、人口減少に歯止めをかける一策であると思います。

※マルチワーカー…

一つの仕事にこだわることなく、複数業種を自分の時間で仕事を選ぶ人。

「災害対策に正解なし」
早急に対応すべき
町長／慎重に検討

池山 災害時の対策として井戸の活用を。

災害時、水問題が深刻な問題となっている。能登半島地震では、水道施設や送水管が広範囲で被災し、最大約11



▲町内には226の井戸が存在する

万戸が断水。トイレの水が流せないなど多くの被災者が不便を強いられた。そのような中で、地下水（井戸）活用が注目されている。使える井戸としての調査を始めるべきであると考える。

町長 本町には、150の井戸があると認識しています。災害時「液状化現象」も起きることも想定できることから水質の変化の可能性もあり、健康被害の心配も考えられます。慎重に検討していきます。

池山 防災井戸として、

政府は本年度末をめぐりに自治体向けの指針を作る方針（2024年8月24日南日本新聞）。国も井戸の活用を検討している。

慎重に検討する問題ではない。早急に対応すべきである。

給食センター建設は
町長／建設基本計画
の用地選定条件に基づき
町有地・民有地
購入の検討

池山 旧自動車学校跡地は、2年5カ月経った現在もそのままの状態である。契約解除して給食センター建設用地としての考えはないか。

町長 法的条件・配送条件・規模（3000㎡以上）・インフラ整備状況・環境条件を総合的に判断し、今後選定していく計画です。

町民も知るべき事業
町長／国より返還義務が発生するか否かの決定まち

池山 「特定有人国境離島地域社会維持推進交付金」858万円の内、（町分）171万7千円が交付金の取り消しとなった。

今後、国への返納もあり得ると聞か。

町長 交付金で事業を始めた事業者さんが、自己破産により事業中止の申請があった。今後、専門アドバイザーによる経営相談など再発防止に努めていきます。



戸田 和代 議員

子宮頸がん予防は、学校現場では

町長 学校現場では指導していない

戸田 子宮頸がんワクチンについて、希望あふれる生徒たちの教育指導にかかわり、多感な年頃の生徒たちをまた、学力向上を目指す中で、安心して学べる教育環境の維持は今の時代、大変苦勞しながら教育に携わっている教職員の方々に深く感謝します。種子島の将来女性たちが安心して出産ができる事、また女性たちの健やかな健康を守ることをために、種子島産婦人科医院の存在が大変重要、日頃からの早期の性教育も重要不可欠であり、子宮頸がん予防として、小学校6年生から高校1年生の女子に奨励されているワクチン接種については、保護者とともに正しい知識を持つことが大事と思われるが、学校現場では、どのような指導をされているのか。

町長 予防接種法では、対象者は予防接種を受けるよう、努力義務を規定しているところですが。平成25年度から定期予防接種となったが、接種後の多様な症状が報告され、厚生労働省の審議会において国民に適切な情報提供ができるまで控え、その期間審議会においても継続して検討がなされています。令和4年度より積極的に勧奨の再開、学校現場では、接種の副作用に関する熟練した知識を持つ職員がいないという事で行っていません。

戸田 ワクチン接種を100%それが予防につながるという事もないわけですので第1予防という事で第2予防は、定期的に検診を受けて早期発見につなげる。

種子島産婦人科病院

の先生方も、いつでも要望があれば講話、相談にのっていただけるという事です。

各学校で家庭教育学級は開設しているのか。

町長 各学校で開設しています。

接種を控えられた方への周知は町長への作成したリーフレット、予防票を送付



▲国作成のリーフレット

町長 対象者全員に通文、国の作成したリーフレット、必要回数分の予防票を送付。

令和7年3月までに3回接種が必要、遅くとも9月中旬に1回目を接種するように周知しているところです。また女性がん検診であったり自公連女性部の研修会、集団健診の結果報告会などで情報発信をしているところです。

曜日と金曜日に診療していただいております。病院の環境は整っていますので、ぜひ学校現場においても専門員の先生方の講話又は相談を。

町長 専門的な説明をしていただく事は、大事なことであります。学校サイドのカリキュラムの問題、先生方の都合、日程などそこは教育委員会のほうで検討させるようにしたいと思っています。

条例

中種子町手数料徴収条例の一部改正

手数料の徴収方法で、キャッシュレジスターにより徴収する、徴収料の種類を変更することから、本条例の一部を改正するものです。

中種子町国民健康保険条例の一部改正

現行の被保険者証の廃止に伴い、健康保険被保険者の資格取得などの届け出や、被保険者証の返還に関する罰則規定を改めるため、本条例の一部を改正するものです。

ひとり親家庭等医療費助成に関する条例の一部改正

部改正

医療費助成制度において、準用する児童扶養手当制度の改正に伴い、受給者本人の所得限度額が引き上げられるため、本条例の一部を改正するものです。

規約

鹿児島県後期高齢者医療広域連合規約の変更

広域連合が処理する事務のうち、現行の被保険者証の廃止に伴い、本規約を変更するものです。

契約

種子島中央体育館改修工事（1期）請負契約

種子島中央体育館改修工事（1期）
契約の内容
屋根老朽化に伴う改



任命同意

教育委員会委員の任命同意

同意

松下佳代氏の教育委員任命について同意が求められ、無記名投票による採決の結果、賛成11、反対0で同意されました。

令和6年10月1日から令和10年9月30日までの任期となります。



松下 佳代氏

臨時会

任期間の令和7年3月までです。

令和6年第1回臨時会（8月9日）

固定資産評価員の選任同意

固定資産評価員には従来から税務課長を充てており、7月1日付けの人事異動により、税務課長に異動があったため、左記の者を評価員として同意しました。

住所 中種子町油久
氏名 田平 さやか

教育長の任命同意

鯨島孝則氏を教育長に任命することについて同意が求められ、無記名投票による採決の結果、賛成10、反対1で同意されました。

任期は前教育長の残



▲無記名投票の様子



鯨島 孝則氏

決算特別委員会を設置

令和5年度各会計の決算については、決算特別委員会にて審議します。

決算特別委員会は、令和6年9月24日から27日までの4日間開催され、各会計の決算内容を審査し、12月定例会で委員長が報告します。

なお、議長及び議選監査委員（梶原議員）を除く10名で審査を行います。

委員長 日高 和典
副委員長 大町田 勇希
外8名



▲審査状況



▲現場審査状況（古房浄水場）

令和5年度健全化判断比率

令和5年度健全化判断比率及び資金不足比率について

地方公共団体の財政の健全化に関する法律により、毎年、本町財政の健全化判断比率及び資金不足比率を公表することになっていきます。本町は、早期健全化基準を下回っており、公営企業（水道事業）についても資金不足比率はありません。

この比率が一つでも早期健全化基準以上となった場合は財政健全化計画、公営企業では経営健全化計画を策定しなければなりません。

令和5年度決算の健全化判断比率

指標の名称	本町比率	早期健全化基準
実質赤字比率	なし	15.0%
連結実質赤字比率	なし	20.0%
実質公債費率	10.9%	25.0%
将来負担比率	3.5%	350.0%
資金不足比率	なし	20.0%

委員会レポート

総務文教委員会



▲情報交換会の様子

当委員会は去る10月18日に中種子町中央公民館において中種子町PTA連絡協議会と現状における中種子町内の教育環境について情報交換を行いました。

学校教育環境における様々な課題や各地域での問題解消のための取り組みについて情報共有することができました。今後も当委員会は学校教育環境改善のため、さらなる調査・研究を進める必要があるとの委員全員の一致した意見でした。

種子島・屋久島議会議員大会IN屋久島

第13回種子島屋久島議会議員大会が10月10日屋久島町で開催

屋久島町「屋久島町議会」で一市二町

全議員の参加により、各町議会の提出議題、共同提案事項の趣旨説明後、全議員意義なく採択されました。提出された議題等については次のとおりです。

各市町提出議題の審議

●西之表市議会

「西之表港中央地区における立体駐車場の整備を求める要望について」

●中種子町議会

「浜津脇港の整備促進について」

●南種子町議会

「島間港の整備促進について」

「公立種子島病院の運営費助成及び医師確保への支援」

●屋久島町議会

「屋久島と口永良部島地域における、自然環境の適切な保護・保全と利用及び持続可能な管理体制を求める要望」

共同提案事項について

「海洋ごみの処理等の推進について」

(中種子町議会提出)



▲会場の様子



▲趣旨説明をする池山喜一郎議員



▲趣旨説明をする濱脇重樹議員

中種子町の提案書

浜津脇港の整備促進について

【中種子町議会】

【趣旨】

鹿児島県の管理港湾である浜津脇港は、種子島の中央に位置し、木材や砂利等の半輸入に利用され、生活物資の安定供給や地場産業の振興など重要な役割を果たしています。また、現在建設中の馬毛島基地（仮称）の港湾施設整備に伴い消波ブロック等の搬出に利用され、工事船舶の往来が頻繁に行われています。港湾は、産業活動を支える重要な物流・生産基盤であり、高潮や津波等の災害から人命・財産を直接防護する港湾海岸施設の役割は非常に重要であります。

しかし、浜津脇港については、港内の水深が浅く、船舶によっては満潮時のタイミングを図り入出港を行っています。また、水深が浅いことによる波高、波速が発生しており、容易に着岸できない状況にあります。

また、木材や消波ブロック等を一時的に保管するヤードが狭いため搬出入時の労働者の安全性や作業効率の向上が図られていません。さらには、漁船やプレジャーボートの小型船だまりが2か所あり、刺し網漁や定置網漁などの沿岸漁業を中心とした小型船舶が多数係留しており、港湾内の開口が狭く一般貨物船や作業船との輻輳により、小型船舶利用時に滞船が発生し、円滑な港湾利用に支障が出ています。今後、馬毛島自衛隊基地（仮称）の通勤港として利活用される計画があることから、安心安全な港湾整備を進めることが喫緊の課題として考えております。

南海トラフ等の巨大地震による被害想定では、種子島に高い津波が襲来し、甚大な被害が発生すると予測されていることから、大規模災害に対応する港湾の防災強化は極めて重要です。

以上のことから、種子島全体の産業や地域経済の活性化に効果が期待されることから、浜津脇港の整備促進を下記の事項に取り組むよう要望します。

記

- 1 船舶の安全な入出港を確保するため、港内静穏度の向上に資する防波堤の延伸及び改良、泊地の浚渫等の環境整備を促進すること。
- 2 物流機能向上と労働者の安全性を確保するために、ストックヤードの拡張を図ること。
- 3 馬毛島自衛隊基地（仮称）通勤港としての機能向上を図るための施設整備並びに人と物の流れをスムーズに行うための管理道路等、付帯施設の整備について必要な予算措置を講ずること。
- 4 南海トラフ巨大地震等の大規模災害に対し、浜津脇港の防災機能を強化するため、海岸保全施設の地震・津波対策を図ること。

委員会レポート | 総務文教委員会

過疎地域における教育環境について



▲さつま町立鶴田小学校



▲出水市

令和6年6月定例会

において総務文教常任

委員会は、「過疎地域に

おける教育環境」につ

いての調査申し出を行

い、当委員会は、去る

8月5日から7日まで

の日程で、調査を実施

しました。

さつま町

さつま町では、少子

化や過疎化に伴い、小

学校14校を6校、中学

校4校を1校に統合す

る再編を行い、教育環

境の改善に取り組んで

います。再編の成果と

しては、児童が多様な

考えに触れ合い、学び

合う機会が増え、これ

により学力が向上しま
した。

また、教員間の研修

機会も充実し、指導力

の向上に寄与していま

す。しかし、児童の地

域活動参加が減少して

いることが課題として

浮上しており、地域と

の連携強化が求められ

ています。

出水市

出水市立鶴田学園で

は、小中一貫教育を採

用し、学年の移行時に

生じる「中一ギャップ」

の問題を解消すること

に成功しています。鶴

田学園では、地域の資

源を活用した特色ある

教育を推進しており、

特に自然環境や農業

体験を通じて、児童・

生徒の成長を促す取り

組みが評価されていま

す。

また、一貫教育のメ

リットとして、小中学

校の交流が進み、教育

内容の連続性が確保さ

れている点も挙げられ

ます。

まとめ

この2つの事例を通
じて、委員会は、中種
子町を担う大切な子供
たちへ、より良い教育
環境を提供することを
最重点とし、行政の責
任において小学校再編
に向けた取り組みを始
める必要がある、との
委員全員の一致した意
見でした。

Youは何しに中種子町へ?

Why did you come to Nakatane?



移住者インタビュー



このコーナーは、中種子町に移住された皆さんに登場していただき、もっと議会だよりを身近に感じて欲しいと思います。

また、ご一報いただければ取材にお伺いします。よろしくお願いします。



▲崖の上のポニョ小学校
(星原小学校)

- ◆移住のきっかけは?
- 海上自衛隊定年後、両親が高齢のため帰省を希望した。
実家の西之表に帰る
- ◆自己紹介をお願いします。
- 中山 博文(60)
西之表出身
長崎県対馬出身
海(9)
小学校3年生
- ◆現在のお仕事は?
- セノ南九州支社(種子島空港勤務)
- ◆住み心地は?
- 地域住民の方々に大変よくしてもらい「飲み方も多く最高です」ばかりも海が大好きで、大変満足しています。サンセットが最高で感激です。
- ◆議会・行政について?
- 自分以外の移住者に対して、家賃が高く、何らかの補助をしてもらいたい。医療機関が少ないため、不安な時がある。
- ◆最後に馴れ初めは?
- バキーが元美容師で、自衛隊の同期の紹介で一発で自分が「一目ぼれし、プッシュプッシュ」の毎日。
「私はだまされて年の差婚となり種子島に。今は幸せな毎日です」

議会傍聴においでください。

令和6年第4回(12月)議会は5日に開催予定です。

中種子町議会では、インターネット(YouTube)で本会議の中継を視聴することができます。会議録も議会ホームページに掲載しています。是非ご覧ください。



議会HPのQRコード

編集後記

30年ほど前アメリカに行く機会がありました。当時のキビ甘諸振興会長がフロリダ半島のさとうきび視察に行こうとの発案でした。成田空港から約10時間、ロイト空港に着。そのわずかに10時間で行ける地球の裏側では戦争が続いています。戦争とはつまり人の殺し合いです。南日本新聞の証言「語り継ぐ戦争」を読んでもいくと、あまりにもあわれかわいそうに活字がかすんで最後まで読めないところがあります。アメリカや日本のリーダーを決める選挙が近づいています。世界のリーダーは本気で戦争の終結に努力すべきではないでしょうか。

広報編集委員会

委員長 橋口 渉

副委員長 大町 勇希

委員 永濱 一則

秋田 和代

梶原 哲朗

梶原 哲朗



発行/中種子町議会議長 編集/広報編集委員会
〒891-3692 鹿児島県熊毛郡中種子町野間 5186
TEL (0997)-27-1111 FAX (0997)-27-3634
Eメール naka-gikai@town.nakatane.kagoshima.jp

なかたね町議会だより NO.173

令和6年11月8日発行